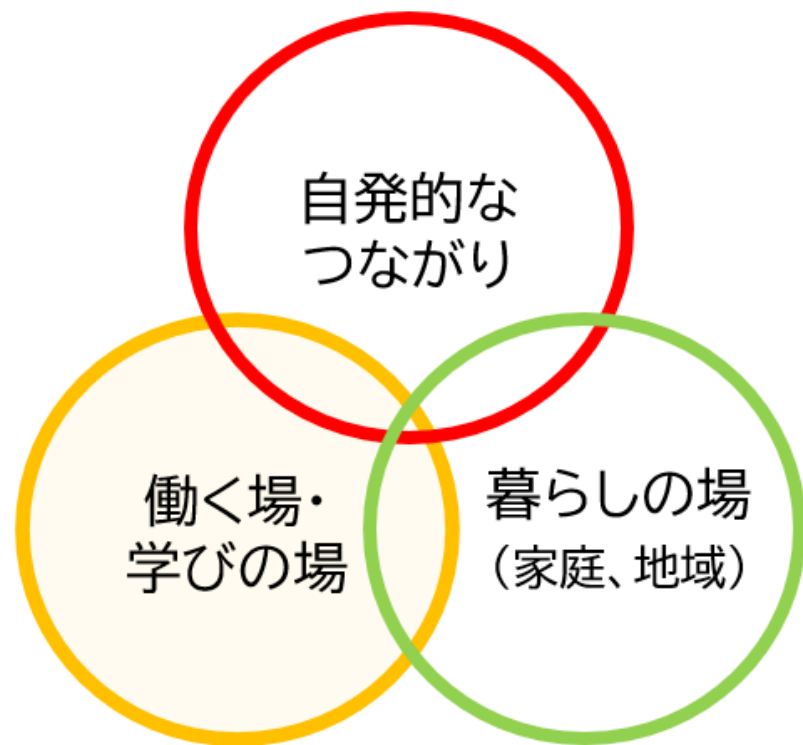


新しい暮らし方を考えるフォーラム



令和8年2月5日（木）

滋賀県総合企画部
県民活動生活課
県民活動・協働推進室

～次第～

1. 事務局説明 「新しい暮らし方」について
2. コーディネーター挨拶、話題提供
3. 自分らしい暮らし方の事例紹介①
4. 自分らしい暮らし方の事例紹介②
5. 従業員が生き生き働くことができる企業の事例紹介①
6. 従業員が生き生き働くことができる企業の事例紹介②
7. 事例発表者と交えたディスカッション
8. まとめ、アンケートについて

「新しい暮らし方」について

滋賀県では「多様性が最大限尊重された、豊かで自分らしい暮らし方」を「新しい暮らし方」とし、このような暮らし方を一人ひとりがデザインできる社会を目指しています。

「新しい暮らし方」の実現に向けて

県民一人ひとりが、互いの多様性や暮らし方を認め合える状態であること、そしてそれぞれが自分らしい暮らし方を考え、行動様式を振り返るきっかけづくりが、重要だと考えています。

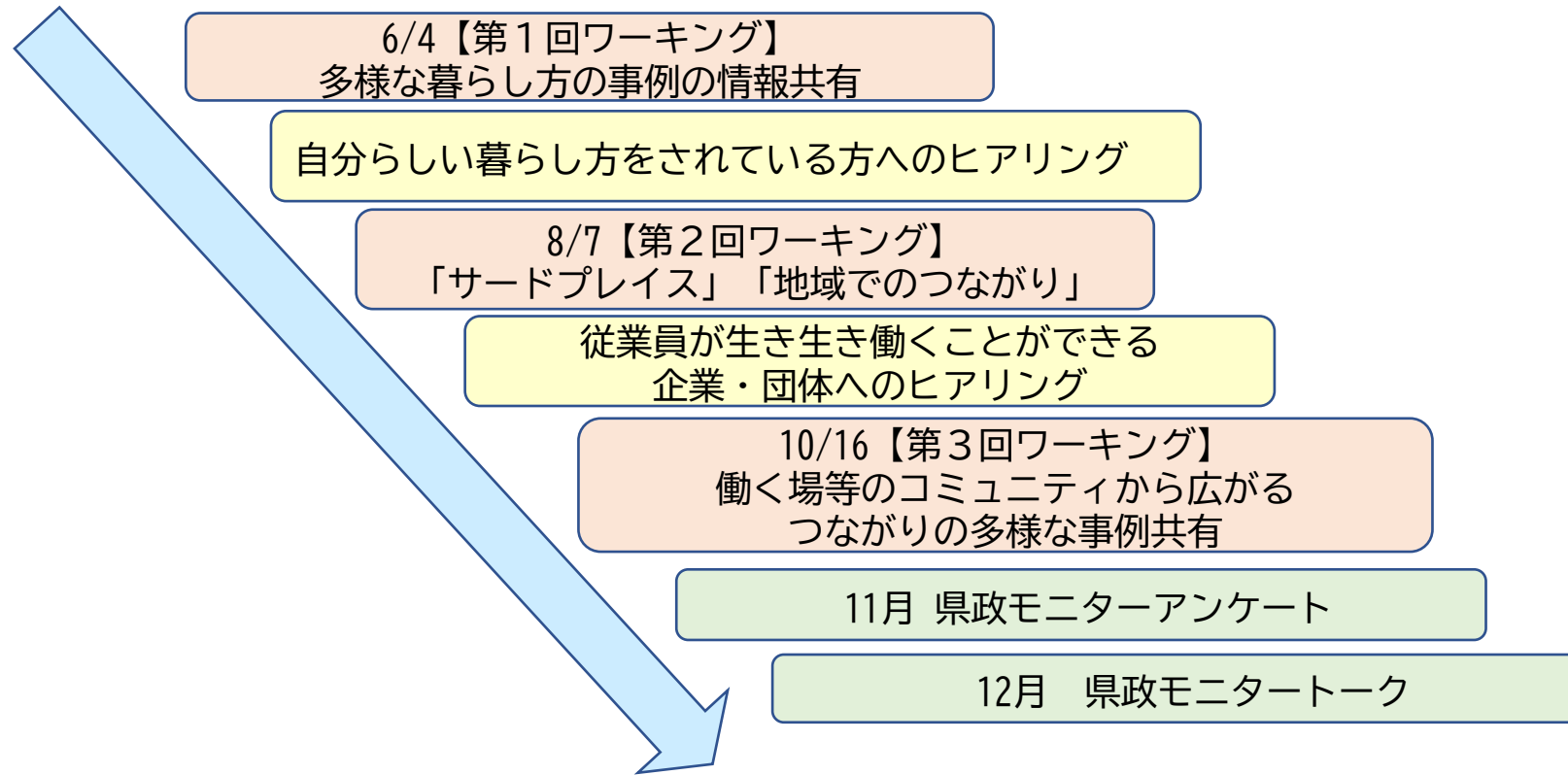
「新しい暮らし方」検討にあたっての背景

社会構造の変化による以下のような様々な課題に対応する必要があります。

- ・高齢者や子育て世代等の地域での孤独・孤立の高まり
- ・増加する外国人住民や労働参加が難しい人への社会の不寛容さ
- ・仕事と生活の両立困難などに起因する、安心して働き続けることができる環境の不足 など

「新しい暮らし方」を考えるワーキングチームについて①

新しい暮らし方は、ウェルビーイングにつながり、「健康しが」の実現にも資するものであると考えられるため、健康しが共創会議のワーキングチームとして位置づけ、3回の意見交換を実施してきました。



事例を広く収集するため、自分らしい暮らし方をされている方々や従業員が生き生き働くことができる企業・団体に、ヒアリングを実施しました。また、より多くの方々に暮らし方についてのご意見を伺うため、県政モニターアンケート等を行いました。

「新しい暮らし方」を考えるワーキングチームについて②

ワーキングチームにご参加いただいた方のご所属

日本紙パルプ商事株式会社
ダイハツインフィニアース株式会社
ぴーまん食楽部
一般社団法人顧問セラピスト協会
医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院
滋賀医科大学(学生)
一般社団法人日本声ヨガ協会
一般社団法人北の近江マザーレイク共創 会議
特定非営利活動法人おおたき里づくり ネットワーク
暮らシフト研究所
淡海ネットワークセンター (公益財団法人淡海文化振興財団)

滋賀県琵琶湖環境部環境政策課 ・びわ湖の日、環境学習等
滋賀県琵琶湖環境部琵琶湖保全再生課 ・マザーレイクゴールズ(MLGs)
滋賀県琵琶湖環境部森林政策課 ・森林づくりパートナー制度
滋賀県健康医療福祉部健康しが推進課 ・健康しが共創会議 (事務局)
滋賀県総合企画部県民活動生活課

県が実施する取組において、自分らしい暮らし方をされている方が関わっておられることも多いため、MLGs・森林保全等の環境分野や農業分野に係る県庁所属も参加しました。

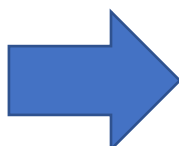
自分らしい暮らし方をされている方々へのヒアリング結果

- ・琵琶湖の漁師としての生業とともに、マルシェ出店、EC販売、漁体験等を行い、琵琶湖暮らしの魅力を発信されている方。
- ・写真家や会社経営をしつつ、アウトドアクリエイターチームの代表とのつながりをきっかけに活動に参加され、写真・映像プロモーションを担当されている方。
- ・時間割や校則等を子どもたちが話し合っで決める私立学校の教員を経て、地域の中でこどもの自己決定機会を増やすため、独立のため滋賀に来られ、お寺を拠点に子どもの居場所づくりの活動をされている方。
- ・障害者支援のNPO法人理事長であり、もともとは住んでいる地域で活動をする予定はなかったが、PTAに参加したことがきっかけで面白さに気づき、地域の子ども会会長や文化振興会会長をつとめられている方。

➡ いずれの方も、それぞれの興味・関心から多様なつながりを広げておられました。

従業員が生き生き働くことができる企業等へのヒアリング結果

- ・ヨシ刈りボランティアに取り組まれている文房具メーカー
- ・Wワーク、副業許可等により従業員の社外とのつながりづくりを推進する害獣・害虫駆除用品メーカー
- ・森林ボランティアや小学校等への出前授業に取り組まれる産業廃棄物処理事業者
- ・森林ボランティアや稲刈り食育イベントに取り組まれる生活協同組合
- ・里山保全活動や地域の清掃等のボランティアに取り組まれる化学メーカー



ほとんどの企業・団体が「滋賀県ワーク・ライフ・バランス推進企業登録制度」や「健康経営優良法人」等、従業員の働きやすさと生活の充実につながる制度認証を受けており、風通しがよい社風に加え、従業員が多様な視点を獲得するためのきっかけづくりとなるようなユニークな取組をされていました。

県政モニターアンケートの回答結果のご紹介

令和7年11月に実施の、県政モニターアンケート(テーマ:人とのつながりと働き方)に、ご回答いただいたアンケートの自由記述回答から主なキーワードを抽出

1. 地域コミュニティ・自治会・交流の現状と課題

- 自治会活動の高齢化・若年層の参加減少、地域のつながりの希薄化。
- 人と人が気軽に集まれる場所やイベントが不足している、特に転入者や子育て世代がコミュニティに入りづらいという声。

2. 高齢者のつながりと支援

- 高齢者同士や多世代間の交流の重要性、適度な支え合いの仕組み。
- 年齢や体力に応じた働き場やボランティア機会の提供、学習支援や情報提供の必要性。

3. 多様性の受容

- 固定観念の払拭、多様性理解の促進、差別や偏見の解消。
- 多文化交流や多様な背景をもつ人々のつながりづくりへの期待。

4. 働き方・職場での人間関係と満足度

- 多様な人材を活かす組織づくり、効率向上には良好な人間関係が不可欠。
- 職場でのコミュニケーションや新しい働き方の重要性(リモート、多様な働き方)への言及。
- 年齢や働き方の多様性への配慮、働きやすい環境整備。

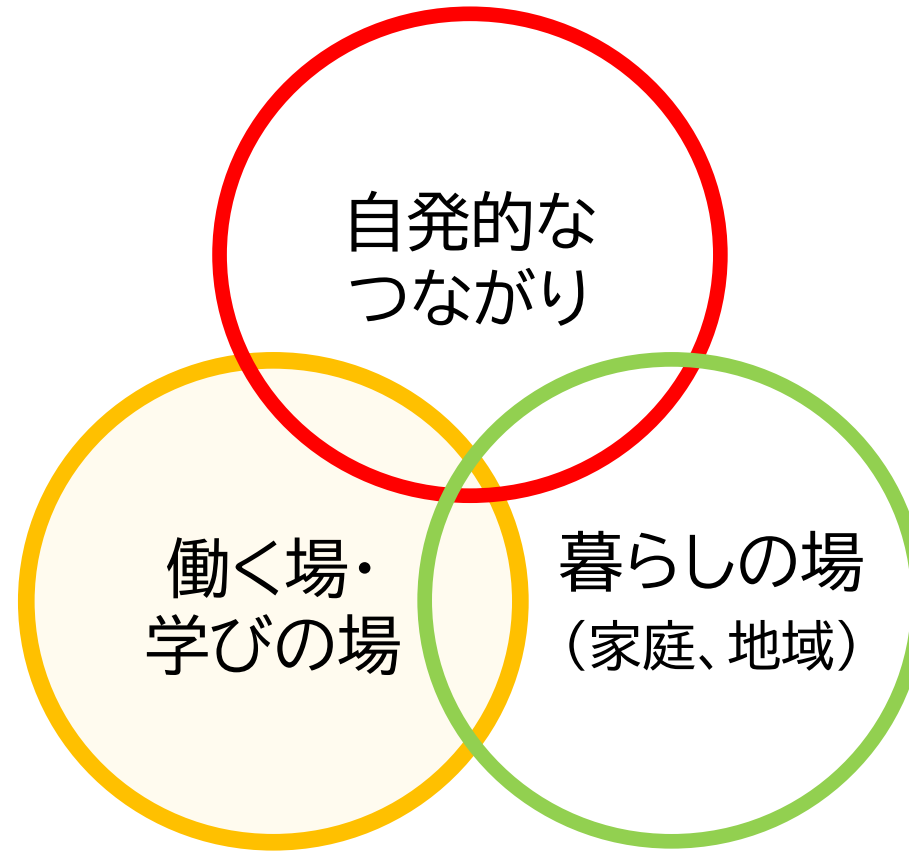
5. オンライン・デジタルを活用した新しいつながり

- コロナ禍以降の働き方や交流のオンライン化の認識。
- SNSやオンラインコミュニティ、在宅ワークが新たな社会参加の手段となっている。
- 対面交流の大切さも再認識しつつ、適切にデジタル利用を組み合わせる意見。

「新しい暮らし方」に関連する「場」について

事例収集のヒアリングを行う中で、「新しい暮らし方」に関連する「場」を「自発的なつながり」「働く場・学びの場」「暮らしの場(家庭、地域)」の3つの「場」に分類しました。

事例を伺う中で、参加している「場」が多く、「場」同士が多く重なっていること等の特徴がありました。



多様な「場」への参加を、周りの人、そして社会が認めることが「新しい暮らし方」の実現に近づくと考えています。

本日のフォーラムの目的

登壇者の方々からご紹介いただく、自分らしい暮らし方の事例や従業員が生き生きと働くことができる企業の取組事例をきっかけに、皆様それぞれの暮らし方や働き方を見つめ直すきっかけにつながればと考えています。

